

第十二回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会
前書俳句の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

追悼 悦子さん

百疇に囲まれ遊びなさいませ

京都府舞鶴市

新庄富実

京都府知事賞

子供の書いた願い事

七夕や神さまだけにわかる文字

兵庫県神戸市

平尾美智男

与謝野町長賞

夫と歩いた木道

一人にはやはり広しと黄菅径

大阪府堺市

井上昌子

宮津ロータリークラブ会長賞

辻田克巳墓碑「泣く奴があるか鶯鳴きにけり」

京都府宇治市

鶯が鳴けり泣くなと言はれても

福井貞子

田中春生賞

初ボーナスの末孫より

どこ産と野暮は言はざり土用鰻

東京都足立区

田中靖人

山尾玉藻賞

安倍元首相の撃たれし日に

不意に画面消えて溽暑の真昼かな

京都府京都市

うえの乙鳥

選評一覽

選者 田中春生 山尾玉藻

与謝野町俳句大賞

追悼 悦子さん

百轉に囲まれ遊びなさいませ

京都府舞鶴市 新庄富美

【田中】『百轉』は大石悦子さんの最後の句集。彼岸において、多くの轉り交す鳥に囲まれて楽しい時間を過ごされるように、と祈る心が伝わる作品。代表句「てふてふや遊びをせむと吾が生れぬ 大石悦子」にも呼応している。

【山尾】大石悦子氏の逝去直前の句集『百轉』を踏まえた胸が熱くなる一句である。しかも氏の代表句の中のへてふてふやあそびをせむとて吾が生れぬをもちり所とした点に深い痛心が込められ、非常に印象深い追悼句である。

京都府知事賞

子供の書いた願い事

七夕や神さまだけにわかる文字

兵庫県神戸市 平尾美智男

【田中】七夕竹に付けられた短冊。そこには文字も覚えられない子どもの願いごとが書かれている。ちよつと判読しがたい文字だが一生懸命に書かれている。きつと神さまには伝わることだろう。子どもの純心さに心温まる作品。

【山尾】幼児の文字は少々読み辛いが、鏡文字などもあり微笑ましい。「神さまだけにわかる文字」とはその様な文字で短冊に願い事が綴られているのだろう。読者にもどの様な願い事だろうかと色々想像させる楽しい一句。

与謝野町長賞

夫と歩いた木道

一人にはやはり広しと黄菅径

大阪府堺市 井上昌子

【田中】すでに御夫君は亡くなられていること、今歩いている木道を生前肩を並べて歩いたこと、これらが前書や句の表に記されていないのにハッキリと伝わる見事な作品。一人には広すぎる、に深い思いが込められている。

【山尾】以前は亡きご主人と来られた黄菅途を今回は唯一人で

迎られているのだろう。「やはり」に予想していた通りだとの淋しい胸中が強調されている。「広しと」の「と」を作者の独り言或いは心の中の呟きと捉えた。

宮津ロータリークラブ会長賞

辻田克己墓碑「泣く奴があるか鶯鳴きにけり」
鶯が鳴けり泣くなど言はれても

京都府宇治市 福井貞子

【田中】墓碑銘の句に応じるように詠まれた句。たとえ泣くことを禁じられても、泣かずにはいられない悲痛な心情が吐露されているといえよう。鶯の鳴きしきるような麗らかな春の日に、墓碑に額づく姿が見えてくるようだ。

【山尾】辻田克己氏の墓碑には代表句へ泣く奴があるか鶯鳴きにけりが刻まれていると聞き、氏のお人柄が偲ばれてならない。氏その句を本歌取りした弔句で、深い悲しみと哀惜の念が籠められている。

田中春生賞

初ボーナスの末孫より

どこ産と野暮は言はざり土用鰻

東京都足立区 田中靖人

【田中】就職したお孫さんからのプレゼントを受け取った喜び。食通の作者には、鰻についても産地へのこだわりがあるに違いない。だからと言って「なんだ〇〇産か」などと言わぬよう、自戒しているところが面白い。

山尾玉藻賞

安倍元首相の撃たれし日に

不意に画面消えて溽暑の真昼かな

京都府京都市 うえの乙鳥

【山尾】前書きと一句が退つ引きならぬ関わりを以って、昨年の思いもよらぬ安倍元首相銃撃事件勃発を語る一句である。「不意に画面消えて」はアクシデントの瞬間の驚愕を、「溽暑の真昼」は混沌とした脅威を言い得ている。

前書俳句の部 入選一覽

田中春生選

賞候補

甦る戦争の記憶、兄十六歳

大根干し切らずに兄は出征す 神奈川県鎌倉市 嶋村比呂樹

要介護の父が施設に入ることになって 大阪府大阪市 北芝ゆう子

父のゐる場所がふるさと春夕焼 東京都小平市 福井芳野

快方に向つていた弟 野鳥を追い森を歩けば

いきなりの別れ山茶花ほたほと 福岡県太宰府市 白石照子

春隣葉擦れの音の角とれて 神奈川県厚木市 奈良 握

片恋は片恋のまま秋夕焼 東京都品川区 本多遊子

元気でねと我より先に生身魂 戦後七十八年今もお苦しむ人、逝く人あり

また一人刻む石碑の広島忌 埼玉県新座市 山本末彦

師の茨木和生は獺期外を惜しみて 兵庫県神戸市 堀 瞳子

食ふならば夏鹿よ手に入らねど 夫のショートステイに許可を得

荷の隅へ日に一合の冷酒かな 東京都狛江市 志村洋子

佳 作

長瀬ラインくだりにて 埼玉県さいたま市 古郡孝之

万緑の山押し分けて舟下り 栃木県さくら市 青木青桐

三高し縄文太きくり柱 福岡県福岡市 能塚節男

ながれ星つかのま光りみんなへ 福岡県直方市 市川武子

裸の子あやす右向け左向け 滋賀県大津市 天智暉山

先に逝く友を叱るか秋の雷 愛知県岩倉市 山田雅弘

常世への道定まりぬ著莪の花 福岡県直方市 伊橋 徹

炊の吾に叫ぶごとくや新入生 千葉県横芝光町 伊橋 徹

父知らぬ父へ父の日プレゼント 京都府京丹後市 番場幸子

暑くなれば老仲間の戦話 佐賀県佐賀市 辻 洋子

戦争を知る者同志大暑かな 茨城県東海村 五十嵐悦哉

告白を思い止まりし青春の時 川 の面を見詰めをれば

信号の点滅君を追わぬ夏 奈良県生駒市 福田えいじ

ぐいぐいと杭廻る出水川 大阪府吹田市 田中富子

スペアキー返し引退虎が雨 神奈川県横浜市 三五一郎

雲の峰ライバル同士かもしれず 京都府与謝野町 尾藤静子

お地蔵の胸元直す初嵐 京都府福知山市 岡田あざむ

葎飾二人住なる大山家 愛知県東郷町 下保木淳子

亡き母の硯洗ひて身ほとりに 兵庫県神戸市 高橋純子

「暑いですわね」異国訛の後ろから 京都府舞鶴市 大瀧和子

家系図に記す文字なし盆の月 京都府京都市 吉田恭子

海分かつ渡島半島夏灯 静岡県沼津市 高橋幸子

函館山からの夜景

山尾玉藻選

賞候補

悼・黒田杏子先生

荒凡夫と木椅子に並び花を待つ 東京都世田谷区 野上 卓

炎天のくらす鋤鋤立てかけて 大阪府東大阪市 土田善子

型通りの絵会に臨みて 神奈川県相模原市 志村宗明

異議なしに異議なかりけり目借時 老妻と農作業に勤しむ日々

母の日や畑で受け取る宅急便 京都府福知山市 河野正一

元気でねと我より先に生身魂 天川栃尾に田空仏の小さき観音堂あれば

堂下は山蟻が守る観音堂 大阪府寝屋川市 川上純一

町ちゆうに水の通ひ路天高し 淡路島 沼島へ吟行して

廃帝の陵あたり稲光 京都府与謝野町 山田祥雲

佳 作

癌に逝きし友人を悼む 奈良県奈良市 堀ノ内和夫

天高し尾根ゆく君の見ゆるごと 軽やかな風を道連れ

秋立ちてポケット版の草花集 大阪府堺市 間谷雅代

若人は丹波太郎を眺めて京の都へ上った 大江山に丹波太郎やけふもまた

百噂の浄土に還り給ひけり 愛知県愛西市 小川 弘

鬱病の夫の介護の日々に思いついた事です 亡くなる五日前の義姉よりメールが届く

白百合や終のメールの「ありがどう」 愛知県名古屋市中矢えり子

快方に向つていた弟 岐山県白川郷どぶろく祭りにて

いきなりの別れ山茶花ほたほと 岐阜県多治見市 可児 勇

どぶろくややがてやかんで振る舞はれ 春といふ優しき言葉汀子の忌

宗家にて親族一同でいただく恒例の若菜粥 滋賀県彦根市 馬場雄一郎

ふるさととは父祖の表札若菜粥 非正規に働く人の処遇を憂いて

夜業明け頬杖に繰る求人誌 愛知県名古屋市中内基成

花魁道中 花の昼ゆるりゆるりと時歩む

散歩道にある公園の一角の弓道場の朝の体感 的の中に響く道場秋気澄む

熊野古道を散策 熊野古道を散策

蟻んこの無音のいのち齧めきぬ 三重県尾鷲市 中村東太

押し車で、お墓参り道で玉虫を拾う 玉虫や手足正しく光りをり

父母の世へ せつせつと目もて渡るや虹の橋

地球上に戦争が無くなる事を願う 地球上に戦争が無くなる事を願う

地球儀を回し八月十五日 大石悦子先生の墨書を前に

処暑に替ふ無地の料紙の縹色 阿波踊りを見てゐてふと思ふ

踊り下駄かくも軍靴の音に似し 夫、熱中症で骨折、三ヶ月入院

折鶴に吹き入る息と秋声と 兵庫県川西市 田中愛子